

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（教育学）	氏名	JHA BULBUL
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
日本語のメタファー理解に影響を及ぼす要因の検討 ーヒンディー語を母語とするインド人日本語学習者と日本語母語話者との比較を通してー			
論文審査担当者			
主査	教授	松見	法男
審査委員	教授	中條	和光
審査委員	教授	深澤	清治
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、ヒンディー語を母語とするインド人中上級日本語学習者（以下、インド人学習者）と日本語母語話者を対象とし、日本語のメタファー理解に影響を及ぼす要因を検討することを目的とした。メタファーの理解は、それを構成する喩辞と被喩辞の間で意味統合が行われ、字義通りの意味が抑制されて比喩的な意味が強化されることによって成り立つ。その過程で、メタファー自体が持つ意味的な特徴や言語的な特徴に加えて、言語話者が持つ特徴も、メタファーの理解に影響を及ぼすと考えられる。本研究はこの点に着目し、4つの実験を行った。実験では、作動記憶容量と音韻的短期記憶容量を個人差要因として設定し、またメタファーの種類及びメタファーの被喩辞に関する語句を材料要因として操作した。実験1と実験3は日本語母語話者を対象とし、実験2と実験4はインド人学習者を対象とした。測度は、メタファーの即時的な理解課題における反応時間と理解率であった。実験の結果を総合して、日本語のメタファー理解モデルを提案した。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、本研究の背景と問題意識をまとめ、メタファー及びメタファー理解に関する理論を概観したうえで、日本語のメタファー理解に関する仮説的モデルを提案した。メタファーを単独で呈示する場合の理解モデルと、文脈を伴わせて呈示する場合の理解モデルをそれぞれ考案し、その検証を含めた本研究の目的を述べた。</p> <p>第2章では、先行研究を吟味し、本研究の研究課題を明確化した。まず、メタファー理解に関する先行研究をまとめ、理解過程における意味の抑制と強化の関係を明らかにした。次に、英語教育の分野で行われた先行研究をまとめ、メタファー理解と学習者の要因、メタファー自体が持つ意味的な特徴の要因、言語的な特徴の要因との関係を整理した。</p> <p>第3章では、日本語母語話者を対象とする実験1と、インド人学習者を対象とする実験2を行い、日本語のメタファーが単独呈示される場合の理解について検討した。実験では、母語話者及び学習者の作動記憶容量と音韻的短期記憶容量の大きさを設定し、メタファーの種類（直喩か隠喩か）を操作した。メタファーの即時的な理解課題における理解率と反応時間を分析した結果、母語話者、学習者にかかわらず、作動記憶容量とメタファーの種類がメタファー理解に影響を与える一方、音韻的短期記憶容量はメタファー理解を左右しな</p>			

いことがわかった。

第4章では、日本語母語話者を対象とする実験3と、インド人学習者を対象とする実験4を行い、日本語のメタファーが文脈を伴って呈示される場合の理解について検討した。実験では、被喩辞との関連語句をプライム刺激として先行呈示する事態を採用し、母語話者及び学習者の作動記憶容量の大小とメタファーの種類（直喩か隠喩か）、そしてプライム刺激の種類（メタファーとの意味関連性の有無、すなわち文脈性の高低）を要因として操作した。メタファーの即時的な理解課題における理解率と反応時間を分析した結果、母語話者と学習者では異なる現象が見られた。母語話者では高文脈性プライム刺激がメタファーの理解を促したが、学習者ではプライム刺激の種類による影響は認められなかった。また、母語話者では作動記憶容量の大小によってプライム刺激の種類による影響の出方が異なっていたが、学習者ではそのような傾向は見られなかった。

第5章では、実験1から実験4までのまとめを行い、日本語母語話者とインド人学習者のメタファー理解について、総合考察を行った。日本語母語話者とインド人学習者のメタファー理解過程の共通点と相違点について述べ、本研究の結果をメタファー理解に関する理論に沿って説明したうえで、メタファー理解モデルを再提案した。そして、本研究の意義、日本語教育への示唆、及び今後の課題を述べた。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 従来のメタファー理解を扱った研究は、英語母語話者を対象としたものが多かった。本研究では、日本語母語話者を対象に日本語のメタファー理解について検討した。これにより、日本語特有のメタファーを考慮した理解過程の一端が解明され、メタファー理解に関する理論の再検証に繋がる成果を得た。
2. これまで、第二言語学習者のメタファー理解を取り上げた実験的研究は少なく、第二言語学習者のメタファー理解に影響を及ぼす要因も未解明な部分が多かった。本研究では、インド人学習者を対象に、第二言語としての日本語のメタファー理解を調べ、日本語母語話者との共通点・相違点を明らかにした。
3. メタファーの研究領域では、メタファー理解のモデルが提唱されているが、その多くは、理解過程に影響を及ぼす要因や、理解過程のどの段階で要因が関与するか視点の欠けていた。本研究では、日本語メタファーの理解過程で働く可能性が高い要因を設定・操作し、メタファーの即時的な理解を観ることによって、母語話者と学習者のメタファー理解モデルを新たに提案することができた。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成30年 8 月 1 日